

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地										
福岡和白 リハビリテーション学院		平成19年3月27日	宮崎 澄雄		〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番13号 (電話) 092-608-8600										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地										
学校法人 福岡保健学院		平成2年3月20日	蒲池 昭子		〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番12号 (電話) 092-607-0053										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士									
医療	医療専門課程	理学療法学科 夜間コース			平成22年文部科学省 告示第30号										
学科の目的	技術を高める姿勢を持ち、知識を広げる姿勢を持ち人を愛し豊かな人間性を備える、理学療法士であること														
認定年月日	平成30年2月28日 文部科学省告示第28号														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位	講義	演習	実習	実験	実技								
4年	昼間	2550	1256時間	444時間	850時間	0時間	0時間								
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数									
160人		54人	0人	7人	29人	36人									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・講義・実習に必要な時間の出席状況と当該科目の成績評価 ・授業科目の評価はA・B・C・Dの4段階とし、C以上を合格とする。 (卒業)履修すべき科目のすべてにおいて単位修得の認定を受けたものについては、学院長が卒業を認定する。 (進級)規定の出席率(欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内)かつ、原則として当該学年において履修すべき全科目に合格したものは進級とする。										
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏 期: 8月20日～8月31日 ■冬 期: 12月29日～1月3日 ■春 期: 3月16日～3月31日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級 条件											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 成績不良者に対し、学習支援を実施。長期欠席者に対し、担任より電話連絡し、状況確認を行い、状況に応じ、学生、保護者、担任、教務部長を含めた面談実施。			課外活動	■課外活動の種類 課外活動については、カンボジア研修旅行、学生間交流会等 ■サークル活動: 無										
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 病院、医療施設、福祉施設等 ■就職指導内容 外部講師による面接対策セミナー実施 グループ校4校での合同就職説明会、学内就職説明会開催 教員による履歴書添削指導、模擬面接実施 ■卒業生数 28 人 ■就職希望者数 25 人 ■就職者数 23 人 ■就職率 : 92 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82.1 % ■その他 : (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士 国家試験受験資格</td> <td>②</td> <td>28人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士 国家試験受験資格	②	28人	26人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数												
理学療法士 国家試験受験資格	②	28人	26人												
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 2.3 % 平成29年4月1日時点において、在学者87名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者83名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による面談等によるフォロー、学校行事を通してリフレッシュを図る														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 授業料減額制度(早期入学者) 特待生制度 修学支援金制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 2015年4月1日～2020年3月31日認定 http://jcore.or.jp/certification.html														
当該学科の ホームページ URL	http://www.fukuokawajiro-reha.jp/														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業における最新の技術・知識、必要とされる人材像等の意見を反映し授業内容等の工夫をおこなうとともに、企業と連携し社会貢献できる人材育成を目指した臨床実習の環境・内容・指導方法等の工夫を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等の外部委員と連携しながら専攻分野に関する施設等の意見や要請等を活用し、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行う。学校法人福岡保健学院福岡和白リハビリテーション学院として教育課程編成委員会を置き、学科の責任者が内部委員として参加することで学科の分化会を実施していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
音地 亮	公益社団法人 福岡県理学療法士会 理事 (社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院)	平成28年4月1日～平成30年3月31日	①
春口 幸太郎	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
池田 裕一	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
花田 宗久	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
野村 晋広	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
林田 大輔	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
饗場 智暁	一般社団法人 巨樹の会 下関リハビリテーション病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
岩本 尚悟	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 理学療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
山田 友紘	一般社団法人 巨樹の会 八千代リハビリテーション病院 理学療法士	平成30年2月14日～平成32年3月31日	③
保科 憲幸	一般社団法人 巨樹の会 千葉みなとリハビリテーション病院 理学療法士	平成30年2月14日～平成32年3月31日	③
佐藤 稔	公益社団法人福岡県作業療法協会 理事 (株式会社 シンダー)	平成28年4月1日～平成30年3月31日	①
穴井 翼	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
清水 慎吾	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院 作業療法士	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
川野 将広	一般社団法人 巨樹の会 原宿リハビリテーション病院 作業療法士	平成30年2月14日～平成32年3月31日	③
田川 秀明	学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院 統括副院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
木村 公治	学校法人福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校 副校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
落合 裕之	学校法人福岡保健学院 下関看護リハビリテーション学校 副校長兼事務長代行	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
橋本 勝彦	学校法人福岡保健学院 小倉リハビリテーション学院 副院長兼事務長代行	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
磯邊 恵理子	学校法人福岡保健学院 小倉リハビリテーション学院 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
野見山 通済	学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院 教務部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
新垣 工	学校法人福岡保健学院 八千代リハビリテーション学院 教務部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
豊島 宇茂	学校法人福岡保健学院 八千代リハビリテーション学院 副院長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
橋本 知美	学校法人福岡保健学院 小倉リハビリテーション学院 教務部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
音琴 慎一	学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院 教務部長代行	平成29年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上:今年度は3回実施 9月、3月

(開催日時)

第1回 平成29年9月29日 14:00～16:00

第2回 平成30年3月28日 10:30～12:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会より以下の指摘を受けた。

臨床実習や新人教育の観点より、コミュニケーション能力や医療人としての資質に関する教育の必要性。「臨床実習」後の反省会の意見も踏まえて、具体的に学内でもっと情意面・技術面への教育が必要である。また、実習中の学生に対するストレス対策が必要である。

【対応策】情意面への取り組みとして、平成29年度より「対人関係演習」の時間数の増加、臨床現場の見学や実習の機会を増やすとともに、医療人としての資質を高めるため、理学療法学科・作業療法学科と関係病院と連携し「チーム医療」を教授できるシステム構築を検討する。実習中の心理的不安の軽減を目的としたストレスコーピングの講義を実施した。また、技術面への強化として、評価の方法や評価実施時のコミュニケーションの取り方などを施設と連携した教育を実施した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院は、学校と医療・福祉業界が協力して、臨床現場で求められる人材を育成し業界に送り出してきた。特に、実習・演習に関しては業界と連携し、初年次より段階的に業界と連携しながら知識技術のみならず医療人としての倫理・態度の育成に力を入れている。また、授業内容においては、業界の最先端の技術知識について意見交換し適宜改変を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次・2年次には対象者の理解と医療人としてのルールマナーを学ぶ基礎的な演習を実施し、3年次には、最前線の医療現場を経験し、卒業時に必要な知識技術及び自己研鑽できる人材育成を実習先と共同し、指導及び評価を行っている。また、多くの業界現場の経験を得る目的で、課目外において任意で見学及び体験実習を受け入れていただけるよう整備を行っている。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
対人関係演習Ⅱ	接遇及びコミュニケーション力向上のため、施設における対象者の傾聴体験を行い、医療人としての基礎を養う。	株式会社サダー 計6施設
生活機能演習	施設において対象者及び職員への情報収集を行い、対象者の生活場面の観察を行い、トップダウン評価及び治療を学習する。	医療機関・介護老人保健施設等 計7施設
臨床実習	各疾患の評価及び治療プログラム立案及び治療までの一連の流れを経験し、理学療法士及び作業療法士の思考過程を学習する。	福岡和白病院 香椎丘リハビリテーション病院 福岡新水巻病院 原宿リハビリテーション病院 小金井リハビリテーション病院 計10病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

医療の専門職として社会貢献できる人事育成のため、授業及び学生に対する指導力向上のため、教員に対し研修の参加・研究・学会発表に積極的に取り組むよう促している。具体的には、学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院主催の教育研修や関連施設と協力した臨床研修及び研究を行っている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修会名称等	内容	開催日	連携する企業
臨床研修	臨床研修(企業等との連携内容) 関連病院にて学生の臨床実習を通して、臨床の現場を把握するとともに現場の指導者と学生指導について意見交換を実施。	平成29年4月～9月 臨床実習期間中、定期的に訪問	福岡和白病院 香椎丘リハビリテーション病院 福岡新水巻病院 新上三川病院 原宿リハビリテーション病院 小金井リハビリテーション病院 新久喜総合病院 みどり野リハビリテーション病院 蒲田リハビリテーション病院 五反田リハビリテーション病院
カマテグループ合同学術発表会	学術研修(企業等と連携内容)関連病院との合同での研究発表会	平成29年11月12日	福岡和白病院 香椎丘リハビリテーション病院 福岡新水巻病院 新武雄病院
カマテグループ合同学術発表会	学術研修(企業等と連携内容)関連病院との合同での研究発表会	平成30年3月11日	福岡和白病院 香椎丘リハビリテーション病院 福岡新水巻病院 新武雄病院

②指導力の修得・向上のための研修等

研修会名称等	内容	開催日
第23回日本心臓リハビリテーション学術大会	学術研修大会・ワークショップ参加	平成29年7月15・16日
第52回日本理学療法学術大会	学術研修大会・ワークショップ参加	平成29年5月12～14日
第30回教員研修大会	学術研修大会・発表	平成29年8月30日～9月1日
学校法人福岡保健学院リハ中央研修	生活行為向上マネジメント	平成29年8月11日
人事考課者研修	人事考課制度における、考課者の役割及び人材育成について	平成29年12月16日
学校法人福岡保健学院リハ中央研修	今時の青年心理 その特徴と彼らへの支援 講師:飯田英晴 藍野大学短期大学部 副学長	平成30年3月12日

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修会名称等	内容	開催日
臨床研修	臨床研修(企業等との連携内容) 関連病院にて学生の臨床実習を通して、臨床の現場を把握するとともに現場の指導者と学生指導について意見交換を実施。	平成30年4月から8月
カマテグループ合同学術発表会	学術研修(企業等と連携内容)関連病院との合同での研究発表会	平成30年9月9日

②指導力の修得・向上のための研修等

研修会名称等	内容	開催日
第24回日本心臓リハビリテーション学会学術大会	学術研修大会・ワークショップ参加	平成30年7月14・15日
接遇研修	接遇について	平成30年7月～8月
第44回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等講習会	教員研修	平成30年8月20～9月8日
第31回教員研修大会	学術研修大会・発表	平成30年8月24日～25日
学校法人福岡保健学院リハ中央研修	アクティブラーニングについて	平成30年8月

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことで、全教職員が学校の状況及び目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・目的・人材育成の明確化 ②学生・保護者・学校関係者への周知 ③医療・福祉のニーズとの整合性
(2)学校運営	①事業計画の策定 ②運営組織・意思疎通機能の明確化 ③情報システム化による業務の効率化
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定 ②実践教育の視点に立ったカリキュラム教授内容の工夫 ③医療・福祉実践教育の体系化 ④授業評価実施体制 ⑤教育力向上のための研修の実施
(4)学修成果	①就職率向上への努力 ②退学率・留年率低減の努力 ③国家試験合格率への努力 ④卒業生の状況を教育活動に反映
(5)学生支援	①学生相談及就職相談に関する体制整備 ②学生生活指導及び安全管理に関する体制整備 ③高等学校や保護者と連携した指導の取組
(6)教育環境	①教材及び教育環境改善の取組 ②臨床実習における環境改善の取組 ③防災に関する体制整備
(7)学生の受入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供 ②資格取得・就職状況等の適切な情報提供
(8)財務	①中長期的な学校の財務基盤の安定 ②予算・収支計画の妥当性 ③会計監査の適切な実施
(9)法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営 ②個人情報保護対策
(10)社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献 ②学生ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(意見)情報システムについては、IT化は十分ではなく、学生と教員とのコミュニケーションツールの検討が望まれる。
→(活用)ICT委員会設置。タブレット端末を利用した授業を平成31年度より実施予定
(意見)教育力アップのため教員間の授業評価も重要
→(活用)教員間授業評価の実施予定

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
阿部 正剛	福岡市市議会議員	平成28年4月1日～平成30年3月31日	地域委員
新井 光男	公立大学法人 首都大学東京 健康福祉学部	平成28年4月1日～平成30年3月31日	有識者委員
桑名 俊幸	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室室長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
奥永 哲二	福岡県立八幡中央高等学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	有識者委員
川原 健一	公益社団法人福岡医療団 たたらリハビリテーション病院 理学療法士	平成29年4月1日～平成30年3月31日	卒業生
牛尾 拓郎	一般社団法人 あきの会 みかんの樹 作業療法士	平成29年4月1日～平成30年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物) 平成30年8月公表

URL: <http://www.fukuokawajiro-reha.jp/evaluation/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全体の教育の質の保証・向上の観点から、以下の内容をホームページで情報公開を行い、学校運営の透明性を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①校長名 ②所在地 ③連絡先 ④学校の沿革 ⑤学校の特色(教育活動・カリキュラム等)⑥教育目標 ⑦運営方針 ⑧教育指導計画 ⑨学校行事計画
(2) 各学科等の教育	①入学者選考の方針及び方法 ②定員数 ③教育課程 ④進級及び卒業要件 ⑤資格取得 ⑥卒業生数及び卒後の進路状況
(3) 教職員	①教職員数 ②教職員の組織及び専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育への取組状況 ②企業等との授業等の取組状況 ③就職支援の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事への取組状況 ②課外活動等の状況
(6) 学生の生活支援	①生活支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	①学生募集及び納付金の取り扱い ②就学支援の内容
(8) 学校の財務	①資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表
(9) 学校評価	①自己点検及び自己評価報告書 ②学校関係者評価による改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.fukuokawajiro-reha.jp/evaluation/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科 夜間コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。また、リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			基礎教養	文章を書く上で基本となる語彙と文法、文章の基本となる文章構成(文の組み立て)を理解する。また、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。	1年前期	30	2	○			○				○
○			対人関係演習Ⅰ	医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解し、自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。また、人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を理解する。	1年前期	30	2	○	△		○				○
○			対人関係演習Ⅱ	人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	1年後期	30	2	△	△	○	○	△	○	△	○
○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。	3年後期	30	2	○	△		○				○
○			情報処理	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。	1年前期	30	2			○	○				○
○			物理学	人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。また、リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および神経系の形態と構造を理解する。	1年前期	30	2	○			○				○
○			解剖学Ⅱ	正常な人体の動物機能特に神経系の形態・構造を理解する。また、正常な人体における植物系機能(呼吸・代謝・成長など)ならびに意識的感覚や精神機能に関わる形態・構造を理解する。	1年後期	30	2	○			○				○
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的(植物)機能を理解する。	1年前期	30	2	○			○				○
○			生理学Ⅱ	ヒトの動物性機能を理解する。	1年後期	30	2	○			○				○

○		運動機能学Ⅰ	身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。	1 年前期	30	2	○			○									
○		運動機能学Ⅱ	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わり、脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。姿勢保持機構と正常歩行について理解する。	1 年後期	30	2	○			○									
○		運動機能学演習	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。	1 年後期	30	2	△	○		○									
○		人間発達学	身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程、人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。また、人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。	2 年前期	30	2	○			○									○
○		医学概論	医療倫理、健康と病気概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。	1 年後期	30	2	○			○									○
○		病理学概論	疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える。また、医療・医学における病理学役割、意味、位置付けを理解する。	2 年前期	30	2	○			○									○
○		整形外科学	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2 年前期	30	2	○			○									○
○		内科学	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査および代表的な治療を理解する。	2 年前期	30	2	○			○									○
○		神経内科学	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	2 年前期	30	2	○			○									○
○		臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。	2 年後期	30	2	○			○									○
○		精神医学	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	2 年後期	30	2	○			○									○
○		リハビリテーションと理学療法学	リハビリテーションと理学療法の理念、対象、実践過程の概要を理解する。	1 年前期	30	2	○			○									○
○		基礎理学療法学	理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。	1 年後期	30	1	△	○		○		△	○	△	○	△			
○		生活機能演習	医療福祉施設において情報収集及び生活場面の観察を専門的視点をもっておこない、対象者と適切なコミュニケーションを図ることができる。また、情報収集及び観察内容を専門用語を用いて記録することができる。	3 年後期	30	1	△	△	○	○		△	○	△	○	△			○

○		臨床運動学演習 I	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。	2 年前期	30	2	△	○	○	○								
○		臨床運動学演習 II	異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。	3 年後期	30	2	△	○	○	○								
○		評価学演習 I	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。	1 年前期	30	1	△	○	○	○								
○		評価学演習 II	評価学演習 I にて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	1 年後期	60	2	△	○	○	○								
○		評価学演習 III	評価学演習 I および評価学演習 II にて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2 年前期	60	2	△	○	○	○								
○		運動療法学演習	運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。	2 年後期	60	2	△	○	○	○								
○		物理療法学	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。症状に応じた物理療法を選択できる。	2 年後期	30	1	○	△	○	○								
○		日常生活活動学演習 I	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。	2 年前期	30	1	△	○	○	○								
○		日常生活活動学演習 II	self careの概念、位置付けを学び適切なADL指導を理解する。ADL評価の意義および検査方法を理解する。	2 年後期	30	1	△	○	○	○								
○		義肢学	切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	3 年前期	30	1	○		○	○								
○		装具学	装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。	3 年後期	30	1	○		○	○								
○		中枢神経系障害の理学療法学 I	脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。	2 年後期	60	2	○		○	○								
○		中枢神経系障害の理学療法学 II	中枢神経系障害の理学療法学 I にて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。	3 年前期	60	2	○		○	○								
○		運動器系障害の理学療法学 I	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。	3 年前期	60	2	○		○	○								

○		運動器系障害の理学療法学Ⅱ	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。	3年後期	60	2	○		○	○								
○		内部系障害の理学療法学Ⅰ	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたりハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	3年前期	60	2	○		○	○								
○		内部系障害の理学療法学Ⅱ	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたりハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	3年後期	60	2	○		○	○								
○		小児疾患の理学療法学	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年後期	30	1	○		○	○								
○		理学療法学技術演習Ⅰ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。	3年前期	30	1		○	○	○								
○		理学療法学技術演習Ⅱ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。	3年後期	30	1	△	○	○	○								
○		理学療法学総合学習	臨床実習の経験を元に、専門基礎科目・専門科目の知識の統合を図り、国家試験受験に値する総合的な力をつけることを目標とする。	4年後期	60	2		○	○	○								
○		生活環境学	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。	3年前期	30	2	○		○	○								
○		地域理学療法学演習	地域リハビリテーションにおける社会制度、理学療法士の役割について説明できる。地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。	3年後期	30	2	○	△	○	○								
○		臨床実習	実際に患者に接して、学内で学んだ技術や方法などを駆使し、臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践力を身につける。	4年前期	810	18			○	○								○
合計				49 科目	2550 単位時間(103 単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者		1学年の学期区分	2期
履修方法：講義・演習・実習により履修する		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。